

令和6年度第1回学校運営協議会議事録

令和6年6月19日 15:30 ~ 17:00

本校会議室

出席者

・学校運営協議会委員

出光委員、渡邊委員、鳥越委員、佐藤委員

・本校職員

栗原校長、長瀬副校長、笠原教頭、小柴、鈴木功、逆瀬川、朝賀、黒滝、宮原、石井、高村、山口、嵩崎

◆全体会

本校職員：今年度から有識者を第三者評価委員として指名することとなった。今年度は出光委員と渡邊委員にお願いしたいと考えている。ご多忙の中大変恐縮するがよろしくお願いしたい。

本校職員：本年度の学校運営の基本方針を説明する前に、まず、先刻からお知らせしていた体育館の耐震工事について説明したい。

昨年度実施予定であった体育館の耐震工事が今年度実施されることとなり、工事が今週から本格的に始まった。

工事中、体育館はその周辺を含め生徒はもちろん職員も基本的には立ち入ることができなくなっている。工事完了は来年1月を予定している。

それに伴い、普段体育館を使用する部活動や授業等も体育館を使用できなくなり、かなりの影響が出る。近隣の学校や公共施設等にも施設をお借りするなどお力を頂戴し、主に部活動を実施していきたいと考えている。

体育の授業については、会議室廊下に卓球台があったのをご覧になった方もいらっしゃるかと思うが、会議室を利用するなど工夫をして実施している。

また、本校は今年の3月で創立から丸20年となり、今年の11月6日に開校20周年記念式典を県立音楽堂で実施予定である。詳しい日程等詳細はまた後日にお伝えをするが学校運営協議会委員の皆様にも是非ご臨席を賜りたい。

・学校運営の基本方針について

本校職員：主に学校教育計画について説明させていただく。

これは4年間の中間計画を立て、それに沿ったものである。今年度が学校教育計画の切り替えの年であり、今年度から令和9年度までの新たな学校教育計画を策定した。

ここですべてをご説明することは叶わないが、計画策定時点での課題について、3つ

の事柄が特に課題だと感じている。

1つ目としては職員の世代交代が急激に進んでおり、この3、4年でかなりの数の職員が入れ替わり、ここ2、3年で着任した職員が大半となっている。ここ数年で着任した教員の中には総合学科が初めての職員も多く、これまで金総で行ってきたことを継承しながら、なおかつ内容を充実させたものにしていかなければならないと感じている。それに伴う人材育成が喫緊の課題である。

2つ目は地域との連携に関してである。新年から大きな地震が起こり、ここ神奈川でもいつどうなるのかわからない状況である。また、コロナ禍で地域連携が中断されてしまったものも多く、その復活やさらなる拡充をしていきたいと考えている。

3つ目は不祥事防止は当然のことであるが、昨今叫ばれている働き方改革についても出来るところから手を付けており、今後も進めていきたいと考えている。生徒指導・支援については、「こどもサポートドック」というものを全県で実施している。

これは、生徒が抱える様々な課題をあぶり出す方法の一つであり、生徒が現在置かれている状況を生徒自身がWebで入力し、入力が済んだものを担任がチェックし、さらに年次やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがチェックし、問題を抱えていると考えられる生徒については面談を行うという取り組みが昨年からは始まっている。これに関しては、県全体では昨年度はある程度の成果が出ていると感じている。また、地域の防災体制の構築と職員のワークライフバランスを考える上で、業務のスクラップアンドビルドを更に進めていく必要があると考えている。この4年間の目標を更に落とし込んだものが、別紙の学校評価書の目標設定となっている。

・各グループから業務内容の紹介

カリキュラムグループ

主に学習面に関する業務を行っている。本校は総合学科であるので、一般的な授業の他に外部講師・専門家と連携した総合学科ならではの教育に努めている。コロナ禍で総合学科らしい授業が寸断されてしまったものも多く、数年間を掛け復活させていきたいと考えている。

総合学科らしい科目を学習していくことも重要ではあるが、その前に基礎学力を充実させることも重要であり、本校生徒の抱える課題でもある。そのために外部教材の効果的な利用を図っている。

上級学校への入学方法も一般入試だけでなく、総合型選抜など様々なタイプのものがある。生徒の進路実現に向け、それら入試へ対応できる力を総合学科ならではの取り組みを通じて養うような教育活動を実施していきたいと考えている。そのような視点からの各委員からのご意見を頂戴したい。

ガイダンスグループ

進路指導が業務の中心である。総合学科高校の要の科目として「産業社会と人間」という科目があるというところが大きな特徴である。1年次で自分の将来の行く末をにらみながら、学習を重ねていく。これが2年次・3年次で実施される「総合的探究の時間」につながり、3年間トータルで進路・将来設計を見据えるとともにじっくりと考えさせる「ガイダンス」の授業について主に担っている。

ガイダンスを実施する際、地域の皆様にご支援を頂戴し、成り立ってきたというのが本校の特徴ではないかと思う。

先週面談週間が終わり、生徒には進路に関わることが書かれている『進路のてびき』を配付し、特に3年生は自分の進路に向かって行動する最終段階を迎えている。

令和6年3月の卒業生255名中の進路であるが、大学100名、短大17名、専門学校110名、公務員・民間企業12名、進学準備・一時就労16名である。本校の場合、地域の専門学校にお世話になるウエイトが高くなっている。

本来であれば生徒には今の実力で達成できる進路ではなく、本人が本当は達成したい進路を選択するような、もっと挑戦をしてほしいと思っている。しかし、安全に早く進路を決めたいと考えている生徒が多い。これは本校だけでなく県全体の傾向であるが、指定校・一般推薦で進路を決めたいと考えている生徒が多い状況である。

今年度はコロナが落ち着いた影響もあるのかもしれないが、医療系に進みたいと考える生徒が増えている印象があり、看護師志望が昨年の倍の20名以上おり、その他理学療法士、作業療法士志望も例年よりも増えている印象である。

とはいえ、未だはっきりとした進路を決められない生徒も多く、夏休み中に面談や進路指導を実施していきたいと考えている。

生活支援グループ

生徒指導、教育相談を主に行っている。生徒が安心、安全な学校生活を送れるように、生徒の悩み事や課題について支援をしている。

評価報告書の中では本グループに関わる場所は生徒指導・支援①③に対応している。

①生徒指導：頭髪、服装、身だしなみ、態度、問題行動への対応やその防止を実施している。

③先ほど説明があった、かながわこどもサポートドックとは、Webを使ったアンケートである。生徒に回答してもらい、その回答の中から生徒が抱えている課題をあぶり出し、必要があれば生徒との面談を実施し、またスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して助言や支援を行うことにより、生徒の課題を解消しようという試みである。

神奈川県全体で大きな課題となっているのは生徒の自死である。サポートドックの中

で生徒が何かに追い詰められていないかを見つけ、大事に至る前に対応していこうというのがサポートドックを取り組む目的である。

種々の問題が発生しないような指導は無論日頃から実施しているが、それとは別に交通安全の指導や、スマートフォンの適切な利用方法などの啓発活動も実施している。

また、生徒やその家庭の生活を支援していく取り組みとして、奨学金や修学支援に関する業務も行っている。

活動支援グループ

主に生徒会を担当している。年に2回ある学校行事（明耀祭、翔総祭）を生徒が主体となるように巻き込み、楽しいものにできるよう日々支援している。

明耀祭（体育行事）は昨年度が2回目であり、生徒が自主的に動くことが少しずつ出来てきた感じであった。10月の翔総祭（文化祭）は、コロナの扱いが5類へ移行したため飲食を解禁し、一般公開も制限なしということで行った。生徒を巻き込み、自分たちで守れるルールを自分たちで作るという試みを行った。飲食の団体は、衣装を着ながらどのように衛生状況を担保するかや、衛生を保つための巡回をどう行っていくのかを考えさせたのだが、生徒が自ら少しずつ行っていけるのかなというところで昨年度は終わった。

今年度から4年間の目標として生徒のリーダーシップを育成していくというものがあり、今後も生徒主体の行事を実施しながら、その中で生徒一人ひとりが自分の役割を認識し、クラスなど生徒のまとまりを引っ張っていける生徒が出てくると良いと思っている。

これらのことから、今年度の目標設定としては、学校活動や委員会活動において生徒一人ひとりが自らの役割を考えて動けるように工夫する、とした。

現実問題として、行事を動かすのが自分たちなのだと思える生徒がまだ少ない。自分たちで行事は運営するものだという意識付けの一環として、今年度3回目の明耀祭を5月に実施した。

明耀祭では、クラスを4つに色分けし、それぞれを団として実施したのだが、今年の明耀祭は、各団の団長が団員をうまく引っ張っていくような感じを出すことができたかなと思う。

SNSの普及により体育祭で着用する衣装やファッションの形態が非常に華美になっている。例えばかなり派手な“盛り髪”が流行しているようであるが、これについても生徒会を中心にルール作りを行った。自分たちで考えたルールを自分たちで守っていくのだという土台は作れたように思える。生徒に行事を運営させることについては大人は見ているハラハラするが、生徒たちが自ら学べる場を今後も作りたいと考えている。

10月末に実施予定の翔総祭は中庭を利用する団体が増えるため、近隣の方々には騒音等でご迷惑をお掛けすることが考えられる。というのも、従来体育館で実施していた

活動が耐震工事により使用できないため、中庭をフルに使わざるを得ない状況となりそうだからである。昨年までは中庭では吹奏楽部などが活動を発表していたが、今年は軽音楽部も演奏を行いたいという要望が出てきている。現在様々に調整中であるが、昨年とは違い近隣の皆様にはご迷惑をお掛けしてしまうかも知れないことをお伝えしておく。

生徒も客として楽しむのは好きだが、自分たちが企画・運営するのは不得手な生徒が多いため、自分たちで企画・運営していくことの楽しさや、クラスの団結を高められるようにしていくとともに、生徒たちが楽しくまた安心・安全の文化祭作りをしたいと考えている。

管理・広報グループ

先ほど話が出たが、11月に本校創立20周年記念式典を実施予定である。その中では生徒による「総合的探究の時間」（本校ではガイダンス）の課題研究発表も予定している。

お時間がありでしたら学校運営協議会委員の皆様にも是非ご臨席を賜りたい。

また本日、後援会会長にもご臨席いただいているが、後援会との協力の元、学校運営を活発にしていきたい。

広報関係としては全公立展が実施され、本校も参加し3000部の学校案内を手渡ししながら広報活動を実施した。

本校を知っていただく活動としては、各中学校の保護者にバスで本校に来ていただき、校内施設を案内しながら見ていただいたり、総合学科についての説明を行ったりするものや、逆に本校から中学校に職員を派遣して、中学3年生やその保護者に本校の特色を説明するようなものも実施している。

総合学科推進グループ

職員の人権研修など各種の研修や、また生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいた研修を実施することにより、授業の更なる改善に取り組むような活動を実施している。

また専門学校や大学との連携や、生徒の研修旅行についても担当しており、研修旅行については昨今の原油高等でどの方面に旅行を実施すれば効果的な研修旅行が実施可能であるのかについての検討も行っている。

本校職員：各グループから業務内容について説明があったが、ご質問・ご意見等あればご発言を賜りたい。

委員：それぞれの所管で様々な生徒向けの文書を作っていることと思う。例えば進路の

てびきであるとか、それらを全部閲覧できるようになるとよいと思った。

第三者から見ると、作成された文書は作成者の血と汗と涙が行間に詰まっているものだと思う。職員同士でも、どのような文書が作られているのかは知らない方も多いのではない。紙媒体でファイルに綴じたものでもよいが Google ドライブ等に作成者がわかるようにだけして格納し、閲覧できるようにしても良いと思う。

少なくとも生徒に対して出している文書は閲覧できるようにしてほしい。閲覧が可能になれば、職員がどれだけ忙しく仕事をしているのか理解をしてもらえるのではない。進路については、生徒が指定校推薦を第一に考えるのはどの高校も同様である。横浜市大も3割は指定校推薦で入学している。

金総では一般受験で進学を考える生徒は少ないと思われるが、その生徒は、大半の生徒の進路が決まってしまった中で受験勉強を続けなければならないため、一般受験を考える生徒への対応にも留意が必要ではないかと思う。

職員の世代交代については、転任や退職が迫ったベテランの先生から、今までの人生を洗いざらい語ってもらうような研修会をやってみてはどうだろうか。職員自身が中学・高校時代をどう思いどう過ごしていたか、から振り返り、その後教員として赴任してからのキャリアや、総合学科でのやりがいなどを語っていただくようなものである。

実際、語って下さいとお願いされないと、本人も気付いていないことが沢山あると思う。また、それを生徒にも聞かせる機会を設ければ、キャリア教育として生徒にも響くのではないか。

委員：私は神奈川県総合学科高校の中で金総は中核を担っていると感じている。今後新しいことに様々な挑戦して行ってほしいと思う。

進路で気になることとしては、生徒に学習習慣が付いているかどうかである。学習習慣が付いていないと、専門学校でも授業の度に小テストがあったりするなどカリキュラムに付いていけなくなる可能性がある。指定校推薦制度を否定するわけではないが、入学試験時に学力試験がない分、合格後に上級学校へ進んだ後のためにチャレンジ精神や学習目標を自ら設定し、それに向かっていく姿勢が必要と思う。上級学校には入りやすくなっている傾向であるが、それとは別に学習習慣確立のための取り組みが必要と思う。

業務の効率化については、今後も ICT 化は避けられないと思う。昨年度金総で実施した職員研修など、今後も高校と専門学校・大学との連携を進めていきたいと考えている。最近では私立高校の教員が情報について学びたいというものや、工業系の教員が生徒に AI について話をしなければならぬから教えてほしいと訪問されることも増えている。

キャリア教育については、その分野で最先端を走っている方や新しい業界を牽引している方等とのコネクションもあるため、生徒と交流する機会を作れるかもしれない。こうした一流の方と生徒が触れ合う機会が設けられると良いのではないかと思う。

委員：私は地域との連携を盛んにしていきたいと考えているが、金総にボランティアのサークル的なものはあるのか。

本校職員：現状サークルはないが、ボランティアについては先方へ失礼とならぬよう生徒へ細かな説明をして、希望者に行わせている。ボランティアの時間数によっては単位認定も可能となっている。

委員：ボランティアは他人に何かをしてあげるといだけでなく、自らの成長にも繋がる。ボランティアを通じて繋がりが持てるとよいと思う。

本校職員：もし、ボランティアを募集したいということであれば、具体的な案をご提示いただければ、生徒へ紹介し募集をかけることは可能である。

委員：オープンスクールには毎回参加しているが、それ以外に普段の授業中の生徒の様子を見てみたいと感じている。自分もまだ金総のことを理解していないなと思うことも多いので、普通科とは違う総合学科をよりよく理解できるための機会があるとありがたい。

本校職員：基本的には、学校運営協議会委員の方々はいつ来校いただいても全く構わない。当日でも良いので連絡をいただければ対応は可能である。

委員：これは見たほうが良い、といった行事があればピックアップして紹介してもらえるとありがたい。例えば4月に実施されている新入生向けの部活動紹介はぜひ案内してほしい。また、普段の授業とは異なるガイダンスの授業や生徒向けの説明会のようなものは案内してもらえるとありがたい。

本校職員：お時間の許す限り自由にご覧頂いて全く問題はない。

委員：私は日頃実際に行われているガイダンスの授業を見てみたいと感じている。

本校職員：いつでも是非見学に来ていただければと思う。

委員：私は保護者代表として臨席しているつもりなのだが、もっと学校（施設等含め）を拝見したい。明耀祭についても来年は保護者も見学できるようにしてほしい。

本校職員：少ない人数で観覧していただく分には何の問題もないのだが、観覧する場所

があまり設定できないのが現状である。誰でも観覧可にしてしまうと、どれくらいの数の方が観覧されるのか把握できないという問題もある。また、仮に観覧できるようにしたとしても座る場所もないため難しいと考えている。決して行事を隠して実施しているわけではない。

委員：明耀祭についてはインスタグラムのライブ配信等を用いて、保護者限定で視聴できるようにしてはどうか。また、そのような配信を行うことについては学校としてはどう考えるか。

本校職員：ホームページ等にも容姿を載せないでほしいという生徒・保護者もいるので、例えば全体を大写しにして誰が誰だかわからないような映像にするという方法は考えられる。視聴対象を保護者限定ということにすれば、現状大きな問題はないかと思う。ただし実施に際しては細かい部分は詰める必要があると考える。

本校職員：新たに赴任された職員からすると、体育祭と聞くと応援団がいるなどもっと大規模なものを想定する方も多いのだが、本校の体育祭は5月の連休明けにクラスの団結を深めるためのレクリエーション的なものに近く、体育祭と呼べるほど大仰な規模感のものではない。規模感も小さいので生徒自らに運営してみようと言えるし、午前中だけで終われるようなものとしている。

翔総祭は準備から時間を掛けているので是非ご覧いただきたい。

委員：例えば、この競技からこの競技までは動画や写真を撮影するよというのを予め生徒へ告知しておいて、後で限定公開という形で見られるようにするのもよいのではないか。

◆分科会

・キャリア部会

本校職員：総合学科らしい授業の展開、基礎学力の充実を図っていきたい。生徒へはチャレンジ精神を身につけさせていくことが課題である。総合学科らしさを出した進路実現をサポートしていければと思う。

本校職員：上級学校の教員対象の説明会に参加していると、基礎学力の低下で入学してから苦しんでいる学生が多いと聞く。例えば、上級学校で解剖学や生理学を学ぶためには高校生物を理解しておくことが必要であるが学習が不十分な生徒も多い。

また、卒業生に自らの進路決定へ至る経験を短い時間でも話してもらいたいと考えている。前例踏襲型でない、新たな視点での取り組みや見直しが必要と思う。

本校職員：働き方改革についてだが、学校の電話について、今年度8時から17時30分以外は応答メッセージが流れ、電話が直接職員室に繋がらないように設定した。この運用は基本的にはうまくいっている。生徒の欠席連絡はネット上のシステムから行うようにもしており、それでは足りない場合は、業務時間内に電話をしてもらうようにしている。

これは横浜市の中学校ですでに実施されていることであり、働き方改革については手を付けられるところから行動してみて、支障が出てきた場合、その都度対応していこうと思う。

委員：失敗から学ぶことや失敗を楽しむことが重要ではないか。これが総合学科の学習に通じるのではないかと思う。

基礎学力の充実についても、今までのやり方がうまくいかなかったから、違うアプローチでやってみようという考えがあっても良い。行き詰ったらとりあえずやり方を変えてみる。新たな方法で挑戦して駄目だったら、この方法はうまくいかなかった、次は別の方法でやってみようというようなやり方が良いのではないか。

運動部に所属している生徒は、スポーツでは失敗は付き物なので失敗を繰り返すことに慣れていると思う。失敗を受け止めて次につなげることをコンセプトに活動していつてはどうか。

委員：確かに働き方改革は必要だと実感している。業務効率化をもっと図っていかねばならない。テキストや資料は複数の教員で共有・アレンジするようにしてもよいのではないか。専門学校では、いろいろな教員がテキストを一緒に作って、よりよいものにブラッシュアップしていつている。

また、生徒には国家試験突破に向けて計画的に学習をさせる習慣を付けさせるようにしている。これは将来社会に出た際に習得しておくべき、プロジェクトマネジメントやタイムマネジメントに通じると思う。それにはまず、現在考えられるタスクをすべて洗い出すことから始めるべきであると思う。生徒自身がなりたいもの、目指したいものを実現するために、導入してみてもどうか。

・地域連携・地域防災部会

本校職員：年度の始めの会であるので、今年度は何を取り組んでいくかだけでも確認をしていきたいと思う。

本校職員：昨年から聖星学園さんと一緒に避難訓練を実施しているが、その規模を拡大していこうかと考えている。

委員：利用者にも様々な障がいを持つ方がおられるため、生徒が驚かないだろうか。

本校職員：近隣の支援学校へ授業で訪問し、学習を深めたいと考えている生徒も多いので、その心配はあまりないと思う。前回とは違う形でもっと金総の生徒を巻き込み、例えば聖星学園を出発するところから、金総内を案内するに至るまでといった訓練をもっと増やしていければと思う。

これについては8月中に予定を組めるようにさせていただければと思う。

本校職員：学校内を見学したいということについては、中学校の保護者の校内見学は日常的に行われているので、遠慮なく来校していただければと思う。

本校職員：先ほど説明したガイダンスの発表会も、生徒の代表が発表する規模の大きいものと、その代表者を決める各テーマごとの規模の小さいものがあり、規模の小さいものの方が普段の生徒の様子を見ることが出来るように思う。委員がご覧になりたいものは規模の小さい方ではないか。

委員：見学はしてみたいが、生徒からは知らない大人が見に来ていると思われるのではないか。

本校職員：ガイダンス発表会に仮に知らない人がいたとしても、生徒からは外部の方や誰かの保護者が見に来ていると感じるよりも、本校は非常勤講師が非常に多いため、講師が見学しに来ているという程度の印象なのではないかと思う。

委員：他の学校では授業参観が実施されているのに金総にはない。なぜなのか。

本校職員：これについてはオープンスクールで対応している。入学を希望する中学生やその保護者だけでなく、在籍している生徒の保護者がオープンスクール時に授業を見学しても問題はない。

本校職員：生徒会としては翔総祭で地域と連携して何か出来るものがあればいいと思っているのだが、自分から動いて行動しようという生徒が少ない。ただ、様々な分野で力を持ち、楽しもうという生徒はいるので、その力をどう引き出していけばいいのかと考えている。

例えば翔総祭で発表する団体として、ダンス部と別に有志ダンスがある。普段は遅刻が多いような生徒を含め、朝早くから楽しそうに一生懸命にやっている。自分たちが楽

しいと思えるものを、もう少し広い視野で見えていけるようになって欲しいとは思っている。

また、本校は生徒を集合させることが難しい学校である（他の学校は昼休みと放課後に集めることができるが本校は昼休みしか集められない）。部活動に所属していない生徒は授業終了後すぐに下校してしまうため、放課後に生徒を集めることが難しい状況である。

明耀祭が大規模なものであれば、例えば地域の皆さまと一緒に玉入れをやってみようかなど考えられるが、そこまでの規模ではないため、現状では地域の皆さまと連携して何かを行うことは難しいように思う。

本校職員：地域連携については何かご提案いただければ、こちらも対応していきたいと思う。

◆委員からのまとめ

様々な施策はあると思うが、何事も諦めずに継続していくことが大切である。我々学校運営に携わる大人自身も、学び成長していくという思いで、生徒とともにこの学校を盛り上げていきたい。

校長：本日はご多忙の中ご臨席を賜り改めて感謝申し上げます。今後も学校運営に対し忌憚のない貴重なご意見を賜りたくお願い申し上げます。